

渡辺復興大臣福島県訪問ぶら下がり会見録  
(令和元年8月21日(水) 14:20～14:28 於) テラス石森)

1. 発言要旨

本日は、飯舘村で飯舘村小中学校・こども園及び特定復興再生拠点の長泥地区を、また、川俣町ではアンスリウム栽培施設を、田村市では都路地区及び「テラス石森」を視察してまいりました。

被災地の将来を担う子どもたちの教育環境の向上、大学の知見等を活かした農業復興、テレワークを用いた地方の労働環境の改善、また、空き家を利用した地域のコミュニティの形成・維持を図る取り組み並びに除去土壌の再生利用の取り組み等を拝見してまいりました。

本日の視察では、帰還困難区域や、かつて避難が指示された地域を始めとする原発被災地域における教育環境、労働環境、住環境等が一步一步着実に良くなっていると思いました。

他方、除去土壌再生利用については現在、実証事業を進めているところです。今後、着実に取り組みを進めていただくことが必要であると考えております。

いずれにしましても、復興には課題が残されていることを忘れず、被災地の復興に全力を尽くしてまいります。

2. 質疑応答

(問) 本日、様々な現場を回られたということですが、その中でも、飯舘村の長泥地区での再生利用の現場を視察されましたが、大臣の率直な感想を改めて聞かせてください。

(答) いわゆる除去土壌をどのように利用していくかという問題について、実証的に取り組んでいる地域が長泥地区です。この問題については、飯舘村の村長さんを始めとします地域の御理解をいただきながら、環境省と連携をしながら今、実証事業を進めているということで、除去土壌をいかに減少化させていくかという意味の取り組みだというふうに考えております。

今後、中間貯蔵施設に貯蔵する土壌の減少化をどのように進めていくかという課題もあろうかと思っておりますけれども、まず第一にしっかりと、今回長泥地区においては、実証事業として取り組みを進めていただきたいと思いますと思っております。

(問) 農地再生の事業については、除染で出た土壌を使うということで、もちろん1キロ当たり5,000ベクレル以下というふうに限ってはいますけれども、風評被害や、もちろんそれを反対する住民の意見もありますし、それについては、大臣として今後どのように

対応していきたいと考えていますでしょうか。

(答) 基本的には、除染土壌について基準値を下回っているものをここで再生させていただくということでありまして、それを上回るものについては、中間貯蔵施設に持っていくという一つの方向性が決められております。

そして、これはまず実証ということでありますので、実際に埋め立てて植物がどのように生育していくかということを見極めていく場所でもあろうかというふうに思っております。したがって、こういった実証事業を通じて、今後の除去土壌の減少化を進めていかれる方向であれば、私はいいことだというふうに思います。

(問) 住民の不安の声などについては、どのように対応していきますか。

(答) 住民の不安については、やはり基準値を下回っているということを明確に表示していく、説明していく、これが大事だというふうに思っております。

(問) 今、「テラス石森」で、意欲ある若者の創業というか起業をご覧になったかと思うのですがけれども、そういった意欲ある若者の起業支援、創業支援を今後どのようにお考えになりますでしょうか。

(答) まずは地域の活性化というものは、やはり次世代を担う若者たちによってもたらされると私は思っております。こういった「テラス石森」のような環境をつくることによって、若い人たちがこの地域に出向いて、そして様々な仕事に取り組んでいただける環境ができたというふうに思っておりますので、今後もこの「テラス石森」の活用を期待しております。

(問) 今日、川俣町では若い農家さんのアンズリウムの栽培というのをご覧になったと思うのですがけれども、オリンピックで使ってほしいという要望もありました。

川俣だけではなくて、被災地では花卉栽培を通じて、オリンピックでぜひブーケを使ってほしい、競技場の近くに飾ってほしいなど、いろいろな要望がきていると思うのですが、大臣として被災地の思いをどういうふうにしていきたいか、被災地の花がオリンピックで飾られる、使われる見通しや大臣の思いについて教えてください。

(答) 川俣町でアンズリウムの栽培を見せていただきました。とても若い方が中心となって栽培を進めているということを、この目で見させていただきました。

アンズリウムについては、前々からそれぞれの町長さんを始め関係者が、オリンピックでぜひともということで、組織委員会等に働きかけをしているということを知っております。

私としましては、「復興五輪」という一つのキーワードがありますので、そういった中で使えればいいかなというふうに思うのですが、私のほうで結論を出せる立場にはございません。ただ、応援をしてみたいと思っております。

(以 上)